令和３年度　第１回 四万十町地域公共交通会議　議事録

●開 催 日 時 ：令和３年６月２４日（木）１４：１５～１５：４５
●会　　場　　：四万十町役場本庁東庁舎　地域交流センター　多目的大ホール
●出　席　者　：森武士（四万十町 副町長）、山本圭（国土交通省四国運輸局高知運輸支局輸送･監査部門 首席運輸企画専門官）、岡田哲也（高知県中山間振興･交通部交通運輸政策課 課長）代理出席：宅間裕修、吉岡真佐人（株式会社四万十交通　代表取締役）、三浦ひろみ（有限会社丸三ハイヤー 専務取締役）、國元豊美（窪川地区代表）、津野修三（大正地区代表）、谷﨑直子（十和地区代表）
■欠 席 委 員 ：出海博史（四国運輸局高知運輸支局 総務･企画観光部門 首席運輸企画専門官）
■事 務 局 等 ：川上武史、武田正人、味元加奈、小林玲央（四万十町 企画課）
真城和也、北村耕助（四万十町 大正振興局地域振興課）
都築桂、冨田努（四万十町 十和地域振興局地域振興課）
土居貴之、藤田順也（アドバイザー：合同会社えこ・まち研究室）

１．開会

（1）事務局　開会の挨拶

（2）会長挨拶

（3）辞令交付　國元　豊美　委員

（4）委員の自己紹介

（5）資料の確認

（6）会議の成立について

委員９名に対して出席者７名で、過半数を超えているため、本会議は有効である。

２．報告事項

【事務局から資料１～３を説明】（省略）

（１）これまでに実施した再編の概要・・・資料１

（２）路線バス利用状況・・・資料２

（３）コミュニティバス利用状況・・・資料３

【事務局から補足説明】

（事務局：企画課長川上）

４Ｐ、１４Ｐ、２１Ｐにあります、地区の月別運行１回当たりの利用者数について、それ

ぞれ赤でパッチングしているところと白のところがあるが、基準が２．０で、１便あたり何人乗っているかという指標になる。ここで２．０を下回ると、運行を継続するのが難しい。たとえば、窪川地域なら、神ノ川線が２．０を下回るところで、大正地域だと里川線・芳川線は、２人乗っていないことになる。下道線については始まったばかりで、まだ周知も足りていないのがあるので、今後周知を図っていく。十和の方はかなり利用していただいていて、ほぼ２．０をクリアしている。十和の方は積極的に利用していただいていることが見て取れる。

考え方として、補助の対象から外れると、２．０を下回る便は今後考えなきゃいけないところがある。今後、新規でコミュニティバスを走らそうかと思ったときに、この２．０という数字が判断の基準になる。様々な地域からコミュニティバスに入ってほしいとご要望をいただくが、一概に要望があるからどんどん走らすのは難しいところがあって、そのための判断の基準の一つとして、１便あたり２人以上乗ることが理由になると考える。

【質疑応答及び意見の提示】

（森会長）事務局から報告をいただいたが、ご質問などあればお聞きしたい。まず私から、コロナの影響か、コミュバスは令和３年度から若干利用者数が減ってきているか。

（吉岡委員）

若干減っているのは、コロナの影響かどうかはわからないが、コミュニティバスは病院だったり会合への足なので、コロナの影響とは言いがたいが、たしかにちょっとは減っている。

（森会長）あと、前回も聞いたかもしれないが、換気はしているか。

（吉岡委員）１往復が終わったら窓を開けて、手すりなど持つところは消毒をしている。

（森会長）運行中は空けていないか。

（吉岡委員）今の時期なら空けている。前から後ろに空気が抜けるようにしている。コミュバスで使っているのは、バス専用の作りではなく普通車で、すごい力で換気ができる機能はないので、窓を開けて前と後ろで空気が抜けるようだったら換気としている。

（國元委員）

黒石地区の民生委員をしているが、コロナのワクチンを申込してみたらと何べんか聞きに行ったら、やっとつながってコロナの予防接種ができるようになったと言うので、「どうやって行くが？便ある？」と聞いたら、「コミュニティバスで行くき、大丈夫や」と、２人だったかな、100 円バスで行くので大丈夫と言っていた。その人はふだん（歩行補助具を持って）歩く人だが、それでもバスに乗って自分で行くのかと思った。

（森会長）個別接種の会場か。

（國元委員）

そうです。自分で。コミュニティバスを使うと言った人が２人いた。どうしても親戚が近くにいない高齢者の方が気になるので、そういうところに行くと、自分なりに利用している。その方も週に２回はバスに乗って町へ出ていくことを心がけていて、「家にいつも引きこもっていたらいかんき」と言っていた。あればやっぱり利用してくれると思う。助かると思う。２．０（以下）になってもほしい。無理だろうけども。

（事務局：企画課長川上）無理だと一概に言えるものではないと思っている。一応、基準、判断材料として、２．０がある。どこかでラインを引く必要がある。２．０が一つのラインになる。

（吉岡委員）その乗車密度だが、１．０台になった場合、町としたら継続は難しいとなるのか。補助はなくても動かさなくてはいけないと考えるのか。

（事務局：企画課長川上）

そこは非常に難しい。懐具合と相談しなければいけないのは、もちろんある。実際困っている方がいらっしゃるのは重々わかる話なので、継続の方向に行きたい思いは、事務局側としてある。ただ、どこまでやるか線引きは難しくなってくる。たとえば、山奥の一軒家の人がどうしてもほしいと言うから、そこにバスを走らせようとするのは難しい。極端な例でいえばそういうこともあるので、一定、事務局で検討しているのは、２．０を下回っているところで、コミュバスを走らすのをあきらめる場合は、ただ一方的になくすのではなく、別の手段を考える。たとえば、タクシー券を手厚く出すのも一つの方法。お金の問題があるので、一概にしますと言えないところがあるが、なくす方向になったとき、別の手立てを考えていこうと思う。

（吉岡委員）補助がなくなったから、やめる方向で（進める）という考えはやめていただきたい。

（國元委員）小さい車に変えて経費を安くする方法は取れないか。

（吉岡委員）いま小さい車なので、これ以上小さい車にすることはないが、（小さくしすぎると）乗り合わせで１日に２人以上が稼げない。

（森会長）言われたように、（経費を安くするには）路線バスからの切り替えが必要になってくる。路線バスを減便し、少ないところはコミュバスにすることで（行う）。

（三浦委員）

うちの担当させてもらっている４路線は、吉岡委員が言われたように、コロナの影響が全くないかと言えば、そうではないと思うが、里川線・芳川線は基準を下回っている。ここは当初から少なくて、一生懸命今いる方、自分の交通手段を持っている方も「ちょっとでも」とがんばっている。

これからさらに掘り起こすとなると、皆さん何年も経って、免許を返納しようとする人がこの路線にもいる。この路線に乗っている方以外も乗るような可能性があるから、残しておけばこれから乗ってくださる方もいると思う。

ただ、窪川地区でタクシーに乗っているお客さんは出かけることに神経質になっている。タクシーは、（町からの）福祉タクシー利用券があり、それが底上げになって何とかできている。歯医者の用などでお客さんが待っているとき話すと、ワクチンを２回打っても安心はできない。マスクもしているけども、皆さんすべてのことに慎重な姿勢なので、まずはコロナが落ち着いて、これからこの路線が残っていれば、乗る方も増えると思う。

３．協議事項

【事務局から資料４を説明】（省略）

（1）今後の再編方針について・・・資料４

【事務局から補足説明】

（土居アドバイザー）

十和地域の小野線・野々川線だが、地区の住民から要望を受けて、小野線・野々川線ともに十川の地区内で、せめて１時間の滞在時間を確保できるようにしてほしい。１時間あれば買い物もでき、ゆっくりできる。そういった要望をいただいた。実際は、予土線に接続するダイヤを作ったが、予土線を使うニーズはないということで、（変更後のダイヤでは）十川の地区内で１時間確保できる時間を確保した。

同時に小野線については、始終点の「ライフショップまつした」さんと中平鮮魚店があるところを出発するダイヤが増える。そこが終点となるので、小野地区の皆さんは２店舗と深いつながりを持っているので、そこでちょっとした買い物ができたらいいなということで、１５分～２３分と細かい時間になっているが、それぐらい折り返しの待ち時間の間にそこで買い物をして、すぐまた小野地区へ帰れるダイヤ変更を考えた。小野線と野々川線のダイヤ変更をした部分は、赤字で記載し、黄色の背景を付けた。

【質疑応答及び意見の提示】

（森会長）再編方針は、先ほどの活性化協議会でも了承を得たことではあるが、聞き漏らしたことやさらに聞きたいことはあるか。

（國元委員）

「住民から要望のあった黒石地区南部、志和峰地区」ですが、２．０あればいいが、私が５年位前に高齢者宅を訪問していた時に、バス停まで行くのが大変で、ここを通ってくれるバスがあったらいいねと役場へ上げた。その人は両手杖でバスには乗らなくなっている。また乗ってくれる人はいるかと考えてみると、奥の方は割と車に乗っているし、高齢の人は施設に入ったりして、ひょっとしたら今はもうニーズがないと思う。（町が）地元に行って、そういう話をしてもらえるのか。

（事務局：企画課長川上）

できる。この話が前々からあるのは聞いていて、現状として、どれぐらいのニーズがあるかはこれをやるとなった場合には調べる。バスは走れる道なのか。

（國元委員）電柱のところが心配。

（事務局：企画課長川上）山中の細い道っぽいイメージがあるので行けるのかも心配しているが、いけるか。

（吉岡委員）狭いが行けなくはない。一回下見をして回った。

（事務局：企画課長川上）できるということなので、ニーズがあるかを調べるところから。

（吉岡委員）地域の人が一回、タクシーでもいいから、３人乗って病院に行けるというような方法でもいいから、何とかしてくれという話からだった。

（事務局：企画課長川上）コミュバスを走らすのがいいのか検証するので、そこは民生委員さん通じてということでお願いしたい。

（國元委員）はい、お願いします。

（森会長）大正地区の津野委員が理事会があって今日欠席だが、局長もいるし、皆さんで情報を共有する意味で、大正地域の状況をお願いできるか。

（事務局：大正振興局長 北村）

自分も５，６年前公共交通に関わり、４月からまた課長になり、その間の動きは全部はわかっていないが、大正地域の状況を言うと、今年度取り組む「大正北部３路線」の打井川線について、以前、何年か前に、土居さんも入って地域の声を聴いた中で、大正打井川は、大正の町の方へ一日３便、それが朝と夕方４時と６時台にあった。というのは、もともとスクールバスが走っていた名残で、朝スクールバスで学校へ行ったのと、学校が終わった４時台、部活が終わった６時台が引き継がれているようで、非常に使い勝手が悪いのがそのままになっている。

打井川の人が大正の方に、たとえば病院であれば診療所の方に来ることもあるし、買い物も一応あるが、どうしても窪川方面に出ていくことが多く、そっちを使うことが多いので、これまでの地域の声を聴いて、今年度中にできたら実証運行をする。打井川は上宮地区、北ノ川方面には農協があったり、郵便局があったりするところを経由して、窪川に行くという実証運行を、今年度中、秋から冬にかけて、地域の方々の声を聴いてやったらどうかということです。奥打井川の区長さんにも実情を聞き取りしたら、バスを利用している方は非常に少なく、窪川に行きたいけれども、バスからＪＲのつなぎがうまくいっていない状況だった。聞いたところ、３，４人が声をかけあってタクシーを呼んで窪川に行くことがあると言っていた。

ということは、週に１回くらいコミュニティバスが走ったら利用することが可能になる。夏のうちに地域に入って、５，６年前は要望があったけども、その方々が今どういう状況なのかわからないので、聞いたらいいかなと。大正地域では「ふれあいサロン」をあったかふれあいセンターが段取っているが、打井川地区でいうと、第一金曜日にやっているし、下道地区なら第何水曜日にやるというのがわかっている。「ふれあいサロン」に行ったらお年寄り、車にあまり乗らない人が集まっているので、聞き取りをするのを考えている。

先ほど言ったのは打井川で、大正北部、下津井・中津川・下道線、このうち下道線が実証運行中で、５月１１日に始まっている。２週間後の７月２日に聞き取り調査をする。下道線の実証運行に合わせ、区長さんにも相談したうえで、下道地区の２か月経っての経過を、使われる方の声、そして、使っていないとしたら使わない理由の聞き取りをする。合わせて、下津井線と中津川線が路線バスで走っているので、今後検討をしていく。

（事務局：十和振興局長 冨田）

十和については、公共交通空白地区として載っている４か所は、それぞれの区長、地元選出の議員すべてに聞き取りをした。たとえば、八木（はちぎ）地区。数年前は２世帯ほど公共交通手段がない家庭があったが、今は１世帯。その１世帯も毎週は利用しない。３週間に１回くらいもしあれば利用するかなという程度。その他にも聞き取りをしたところ、乗車密度の話があったが、これに１．０いかないくらいの状況にしかならないのではないかという状況。今回、ここにある公共交通空白地区の４地区は、今年度については見送りをするということで考えている。

小野線と野々川線については、先ほど事務局から説明がありましたが、基本的に十和地区の場合は、利用者の一番のニーズは、十川でのお買い物にある。既存の小野線で言うと、十川地区での滞在時間が２時間くらい。逆に、野々川線で行くと、十川地区での滞在時間が３０分くらいと短い。利用者のニーズを聞くと、１時間くらいあるのが望ましいのではないかということで、それを一つの目安とした修正案となっている。

（谷﨑委員）

大正の局長さんに、（住民の）代表者の方がいなくて申し訳ないが、下道と私の関係で、区長とも話をしていて、いろいろと話が入っている。バスを上まで延長してもらった地域は、本当に嬉しいと。こんな嬉しいことはない。願いが叶って喜んでいるが、一番乗りたいと言っていた人がこの間亡くなりました。そんなことがあって、日に日に、高齢者、利用したい人が亡くなっていくということが辛いので、何とか利用の仕方を考えてみたいと思うという話をした。

それから、子どもが田野々へ嫁に行っているので、孫を連れて帰ってくるが、帰ってくるときにそのバスを利用して帰ってくる。一日遊んで、次のバスで帰っていくということも、一つの利用方法としてやっていると聞いた。本当にいいことだと思う。外から呼び込むという方法も考えていかないといけないとその話を聞きながら感じた。本当に喜んでいた。ありがとうございました。

（森会長）（１）の「今後の再編方針」については、提案の通り、承認いただけるということでよろしいか。

【全員挙手による承認】

（森会長）承認されました。

【事務局から資料５を説明】（省略）

（2）コミュニティバス令和４年度運行概要・・・資料５

【事務局から補足説明】

（土居アドバイザー）

30P 下道線については、北村局長から意見あったとおり地区に入って意見交換をする。要望に対応し、１０月に本格運行するかどうかの確認もしていく。

39P 野々川線の時刻表が更新できていない。

45P の小野線の時刻表が現在の時刻表、次のページ、次の次のページが 10 月から変更する予定のダイヤを入れている。十川中心部での滞在時間を増やすための取り組みとなっている。

（森会長）

特に大きな変更点はない。これまで説明のあった路線なので大丈夫とは思うがよろしいか。

（２）の「コミュニティバス令和４年度運行概要」は原案の通り、承認いただけるということでよろしいか。

【全員挙手による承認】

（森会長）承認されました。

【事務局から資料６を説明】（省略）

（3）令和４年度 四万十町生活交通確保維持改善計画・・・資料６

【事務局から補足説明】

（土居アドバイザー）

１回運行あたり 2.0 人を超えていることが条件で、運行に対する補助をいただくため、毎年、申請する計画書となっている。四万十町で申請している路線は、窪川地域のコミュニティバスだけになっている。残念ながら、この制度ができるタイミングより前に十和地区は運行開始したこと、大正地区は制度ができる年に運行開始したことにより、国の新規要件がクリアできなかったので、フィーダー系統の補助をいただいているのは、窪川地域の路線だけになっている。

（中略）目標値の設定数値の部分で訂正がある。独自の移動手段を持たない世帯数が 47 世帯となっているが、54 世帯となっている。

（中略）十和地域で運行開始している小野線は、補助対象に載せているが概要は変わらない。

【質疑応答及び意見の提示】

（森会長）国費を 500 万円くらいもらえるありがたい事業。先ほどの説明で、小野線は補助対象になるが、下道線は対象にならないのか。

（土居アドバイザー）

下道線は新規要件をクリアすることができない。新規要件の中には、新規運行区間として、今までバスが走ってなかったところを新たに３キロ以上走らないといけないという要件がある。

（國元委員）

バスの利用状況ということで、窪川まで来られるのはいいが、それからあとが困る。100 円でバスに乗ってきます。武田病院行き、その後サンシャインにも行きたいです。が、そんなに歩けない。ワンコインと言ったら悪いが、タクシー会社で 100 円くらいで町の補助をしてもらい、ワンコインでお年寄りが、武田病院に電話して、タクシーに乗って、サンシャインで買い物をする。そこから、またコミュニティバスで帰るというような、旧（窪川）町内の買物に対しての心配りをしてもらえたら、もっとバスを利用してくれる人が増えると思う。ここまで来ても、ここから先が困るという人が多い。町まで来てからが。

（土居アドバイザー）

地域公共交通網形成計画の取り組み 1-①-02 の中に窪川地域中心部の移動制約者への対応を計画に盛り込んでいる。國本委員のいっていた格安でバスに乗ってということではなく、まず今走っているバスの整理をし、窪川地区中心部だけの時刻表を作ったら、案外いいタイミングであちこち行けるのではないか。便利な持ちやすい形にして、お配りることを考えている。現状整理はできている。ただ、幹線バスは、これから再編になるので、作業がストップしている。コミュニティバスが曜日によって時間が変わっていくので、どう整理するかが大変。

（國元委員）高齢者がいろんなバスを乗りかえるのは難しい。何分待ってここの病院に行って、次何分待ったらここに行くバスを待つというのは、ほとんど不可能に近い。

（土居アドバイザー）今あるものをいかに使ってもらうかということを考えてほしい。

（國元委員）それもそうだが、タクシーなんかを便利にお国の方に出してもらえばどうか。

（運輸局：山本委員）

そういうのは当然出ませんし、タクシー業者さんに余力があるかも問題。乗務員さんの不足の問題もある。

先ほど、乗り継ぎの話で、目的地まで行きたいけれど、年寄りはわからないとお話があったが、地域によっては、曜日運行のダイヤに合わせて、乗り換えたら行けますよというケースもある。例えば、高知の医療センターに行きたいとなったら、かなり乗り換えがあるが、この便に乗って、この便に乗ったら、何時に着きます、というのを地域別に作り、目的地まで行っていただくという方法もあります。一概に、最初から乗り換えがなかったらいいという話ではない。

（國元委員）目的地は一つではないのではないか。

（運輸局：山本委員）

なので、それを何パターンか作る。街中再編の話が出ているが、これが固まらないことには前に進まない。例えば、月曜日の（コミュニティ）バスに乗って、病院に行きたいのであれば、この便に乗ったら行けますよというのを、バスに乗る前に子どもに確認してから行って、そのとき乗り継ぎを地区別に示したものを作るのも一つの方法。だから、街中に出てき

て、簡単にタクシーを使うのは、対応できるかという問題もある。タクシーに乗るとしても病院に行くとか、駅に行くとか、時間帯で集中する。交通事業者さんの対応が難しいということもあるので、行き方を示したものを使う方法がよいと思う。

（三浦委員）

私たちにとったら少なくなった仕事の中で、コミュニティバスや病院のバスでいろんな公共交通で街に来られて、それからちょっとその時間を利用して確かに、タクシーは高いとは思う。年金暮らしの方にとっては大変だと思うが、タクシーを利用してくれている方は惜しいと思っているが、限られた時間の中で、今私はここにすぐ行きたいということで、町内なら最低 580 円いるんですよ。そういう積み重ねで、私たちの事業はなんとかつないでいるので、そういうこともできたらいいが、タクシーの仕事はほんとに先が読めなくて、いつどんな仕事が入ってくるかわからないのを、お断りしないようやりくりしてやっている。

山本委員が言うように、人数が少ないからなんとか…というように、かっちりした仕事をいれてしまうと、貴重な金を使って乗って下さっている方が不利になっていくのではないか。こういう会に来るたびに将来のことを想像して不安になる。タクシーの価値は、自分の行きたいときに自由に行けること。四万十町のタクシーチケットを利用でき乗っているので、私たちも努力しなくちゃいけないことがたくさんあると思うが、タクシーの個性というか、利用する価値を皆さん認めていると思う。今後ともがんばるので、そういうところも考えていただけたらと思う。これからも仕事を続けていきたい気持ちがあるので見守っていただけたら。

（森会長）

國元さんの提案は難しい課題はあると思うが、ちょうど３月議会に武田議員が市街地に周回できるような電気自動車の提案もあり、ここで答えは出せないが、一つの検討材料になる。

そのほかご意見がないようなら、（３）の「令和４年度 四万十町生活交通確保維持改善計画」のとおり、承認いただけますか。

【全員挙手による承認】

（森会長）提案の通り決定します。

４．その他

（１）待合所整備の方針について・・・資料７

【事務局から資料７を説明】（省略）

（会長）　窪川地区はないか。

（土居アドバイザー）　しまんとハマヤさんがある。

（國元委員）

別の会の生活支援整備体制事業というがありまして、それに参加させてもらった時に、ハマヤさんで荷物もってバス待つのが大変で、その会の会員さんが、椅子作ろうか、とボランティアで作ってくれた。その椅子はものすごく活用されている。もっと作ったらいいと思うが、どこに言ったらいいですかね。

（事務局：企画課長川上）

ハマヤさんの件についてはいろいろご要望もいただいている。路線バスの窪川～十和に

ついて、ハマヤさんを経由することを検討している。課題になるのは、ハマヤさんに寄るのはいいが、一般車の駐車場なので、そういう作りでバスが入っているという状況は、安全とは言い難い。駐車場内で待たれているが、根本的に駐車場内でそういうことをするのがいいのかという問題もある。

（國元委員）それは行政的な発想。利用者のことを考えてない。

（事務局：企画課長川上）そこをバスが入っていけるような構造に変わるようなことを一緒に考えていく必要がある。

（國元委員）ハマヤさんが行けるようになると、ミヤタはどうなる？という話がでる。そこは平等にやってもらいたい。

（事務局：企画課長川上）ミヤタの前は通るか。

（土居アドバイザー）通るバスと通らないバスがあるが、ほとんど通らない。

（事務局：企画課長川上）

そこらへんも一緒に考えないといけない。ハマヤさんの前にベンチを置くことは、やろうと思えばすぐにできるが、四万十交通さんの今の運行の条件もあるので、考えていかないといけない。

（國元委員）カチカチにならんように。

（土居アドバイザー）高知県もバス停の見直しをしている。安全を最優先に考える必要がある。ハマヤにそのままベンチをおくのは危険かと思われる。

（谷﨑委員）

十川橋のガード下、なんとかならないか。昭和地区は農協のスペースの一角に作っていただきたい。作っていただけたら集まって待っていると思うので。荷物の積み忘れもないように、だれもが安心して待てるところがほしい。

（事務局：十和振興局長冨田）

昭和地区について、学校前に歩道をつけることを県と一緒に整備しようとしているので、それに合わせてバス停の移転も考えている。

十川の町中で、自転車屋さんだった場所をバス停として提供してもらっているが、ほとんど使われていない。中に入っていたら気づいてもらえないから。彦市の前で待つ人や、利用者の多い古城の人は十川橋で待つ人が多い。バスが来たのが見えるし、気づいてもらえるから。買い物の流れとして、彦市で買い物して、十川橋の近くの三好商店で買い物して、そのあと十川橋で待つという流れがある。

（國元委員）自転車屋さんのところは誰も使ってないか。

（事務局：十和振興局長冨田）ほとんどいない。トマトを売っている。

（國元委員）黄色い旗を立てたら居る、とか。

（事務局：十和振興局長冨田）時刻表を貼ったりしたけど全然。

（谷﨑委員）三好屋さんの前でバスの運転手はよく止められるそうだが、そこはとても危険とのこと。

５．閉会　　15:45